

今日の説教のポイント<創世記 21 章 22～34 節>

①何をしても共にいて下さる神様とは？

サラのことでだまされた(20 章)アビメレクが、アブラハムを信じ切れずにいます。当然でしょう。しかし、そのアビメレクが、「神は、あなたが何をなさっても、あなたと共におられます」(22)と言っています。この発言は大事なことを示しています。聖書の神様は、私たちが示す姿によってその扱いを変えられるお方ではない、ということです！ 私たち人間の愚かさ、それでもなお私たちを見離さない神様の憐み深さ。ここから聞き取るべきはそのことです。

②完全ではない人間が作る社会で生きていくために必要なこと

アブラハムはアビメレクに、彼の部下が自分たちの井戸を奪ったことを話しました。アビメレクは、「あなたも告げなかったし、私も今日まで聞いていなかったのです」(26)と言っています。色んなことを考えてアブラハムは言わなかったのでしょうか。ここで感心するのは、それぞれの言い分を言い合った後、関係を切ってしまうず、より良い方向にコマを進めるべく取り組んでいることです。人間が集まって生きていく社会で色んな誤解が生じるのは当たり前のことです。①で見たように、完全な人間はいないのです。そのことを思い、共に相手を受け入れて（自分も受け入れてもらうのですから！）、良い関係に向かって進もうとするときに道は開かれていくのです。

③契約は、神様の前でするときこそ、信頼できるものになる

「二人は契約を結んだ」(27)とあるのに、アブラハムはさらに7匹の子羊を“別にし”(28)、「これを受け取って、私がこの井戸掘ったことの証拠として下さい」(30)と言いました。今度は、アブラハムの方が、二人で交わした契約では信じられないと思ったのでしょうか。神様の前で交わしたのではない、人間同士だけの契約は簡単に破られるものです。ここでは「別にする」(28, 29)ことが強調されていますが、神様への捧げ物も“聖別”します。アブラハムもアビメレクに、それと同様の真剣さを求めているのではないのでしょうか。